

読 響

Yomiuri Nippon
Symphony
Orchestra
55th Anniversary

マーラー〈巨人〉

マーラーが苦悩と希望を込めた楽譜に、
カンブルランが鮮烈な色彩で 命を吹き込む!

Conductor: SYLVAIN CAMBRELING
HAYDN: Symphony No. 103 in E flat major "Drumroll"
MAHLER: Symphony No. 1 in D major "Titan"
Saturday Matinée Series, No. 196 / Sat. 8th Apr. 2017 14:00
Tokyo Metropolitan Theatre
Sunday Matinée Series, No. 196 / Sun. 9th Apr. 2017 14:00
Tokyo Metropolitan Theatre

指揮 シルヴァン・カンブルラン

ハイドン 交響曲 第103番 変ホ長調「太鼓連打」
マーラー 交響曲 第1番 二長調「巨人」

2017 読売日本交響楽団 第196回 土曜マチネーシリーズ

4/8

Sat.

東京芸術劇場コンサートホール 14時開演

S ¥7,500 A ¥5,500 B ¥4,500 C ~~SOLD OUT~~

2017 読売日本交響楽団 第196回 日曜マチネーシリーズ

4/9

Sun.

東京芸術劇場コンサートホール 14時開演

S ¥7,500 A ¥5,500 B ¥4,500 C ~~SOLD OUT~~

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休)

ハイドンとマーラー、 交響曲の始まりと終わり

山崎浩太郎 (音楽評論家)

ハイドンの交響曲「太鼓連打」。印象に残る名前だ。ハイドンの作品には、しばしば曲の特徴をとらえたニックネームがついている。「太鼓連打」は、曲の初めにティンパニがドロドロと打ち鳴らされるので、そう呼ばれている。

ハイドンがこの曲をつくったのは、1795年のこと。それまでの交響曲は弦楽器と木管楽器に、少し金管楽器が加わる編成が主体だったが、ちょうどこの曲の頃から、さまざまな打楽器や金管楽器を活用して、華麗にして壮大な音響をもつ、スケールの大きな音楽になってきた。そうして交響曲というジャンルが、クラシック音楽の頂点とも見なされるようになり始めたのである。

この曲の冒頭のドラムロールは、まさにそうした新感覚のサウンド。フランス革命からナポレオン戦争へと続く、激動の時代にふさわしい作品だ。

一方、マーラーの「巨人」は、ハイドンやベートーヴェンの活躍で華やかに開幕した19世紀の交響曲の歴史の、終わりの時期につくられた作品である。ロマン派の爛熟期だけに、マーラーはこの曲を交響曲と呼ぶか、より物語性の濃い交響詩と呼ぶかで、さんざん迷った。交響詩だったときは、マーラーが愛読したジャン・パウルの小説『巨人』をタイトルにして、青春の輝かしさに始まり、挫折の苦しみとその克服の過程を描くものとしてつくられていた。

結局、マーラーは5楽章あったのを4楽章に削り、純粋な交響曲としてまとめたのだが、しかし物語性は濃厚に残っているし、「巨人」という本人が放棄したタイトルも、ニックネームとして使われ続けている。

このようにハイドンとマーラーは、19世紀ウィーンの交響曲の歴史の、始まりと終わりの時期に生きた人たちである。この二人の音楽を、フランス人カンブルランはどんなアプローチで聴かせてくれるだろうか。最近のカンブルランはお得意のフランス音楽に加えて、モーツァルトやベートーヴェン、シューベルトなど、ウィーンで活躍した作曲家たちの作品を積極的に取りあげて、ドイツ系の指揮者とはまた違った、優美で華やかな音楽として聴かせてくれている。その流れのなかで、ハイドンとマーラーがどのように響くのか、楽しみだ。

Conductor SYLVAIN CAMBRELING

シルヴァン・カンブルラン (指揮)

色彩豊かな音楽作りで、読響を世界のトップレベルへと導く名匠。1948年フランス・アミアン生まれ。2010年から読響常任指揮者を務め、古典から現代まで幅広いレパートリーを演奏し、高い評価を得ている。現在、シュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督を務めるほか、クラングフォーラム・ウィーン的首席客演指揮者も兼任している。ベルギー王立モネ歌劇場の音楽監督、フランクフルト歌劇場の音楽総監督、バーデン・バーデン・フライブルクSWR響の首席指揮者を歴任。ベルリン・フィルなど世界の一流楽団に客演している。今年11月には、読響とメシアンの大傑作オペラ「アッシュの聖フランチェスコ」(演奏会形式)を全曲日本初演する。

読売日本交響楽団 第196回 土曜マチネーシリーズ

2017年4月8日(土) 14時開演
S ¥7,500 / A ¥5,500 / B ¥4,500 / C **SOLD OUT**

読売日本交響楽団 第196回 日曜マチネーシリーズ

2017年4月9日(日) 14時開演
S ¥7,500 / A ¥5,500 / B ¥4,500 / C **SOLD OUT**

東京芸術劇場コンサートホール

東京都豊島区西池袋1-8-1 Tel. 03-5391-2111

● JR・西武池袋線・東武東上線・東京メトロ「池袋」駅西口より徒歩2分
(* 駅地下通路2b出口と直結しています)

読響サービス 東京芸術劇場には一時託児施設があります。 **学生券** 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。 **都合により** 曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 **未就学児** のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択してチケットをご購入いただけます(一部、携帯電話、スマートフォンなどを除く)。*郵送でチケットを受け取る場合、送料は無料です。

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

読響ホームページ <http://yomikyo.or.jp/>